

政策金利引き下げでも堅調なオーストラリア・ドル

オーストラリア準備銀行（中央銀行）は8月2日、政策金利を0.25%ポイント引き下げ、過去最低の1.50%に決定しました。市場では「自国通貨高のけん制が主目的とみられるが、効果は限定的」との受け止めが目立ちます。良好な国内景気に加え、他の主要国と比べ高めの利回り水準を求め「オーストラリア債券市場に投資資金が流入している」との観測等が下支え要因となり、利下げ決定後もオーストラリア・ドルは比較的堅調です。

市場取引の主流である対米ドルだけでなく、対円でみても数年ぶりの安値圏にあることから、オーストラリア・ドルは割安感が意識されやすくなっているとも言えそうです。

自国通貨高をけん制する当局の動き

■政策金利の引き下げ（以下、利下げ）は今年に入って2回目です。前回5月3日の利下げは、オーストラリア・ドルが2013年から続いた対米ドルでの下落トレンドから反転上昇しかけた局面における、予想外の利下げでした。利下げを受けオーストラリア・ドルは0.77米ドル付近から、5月後半にかけて0.72米ドル割れまで下落しました。

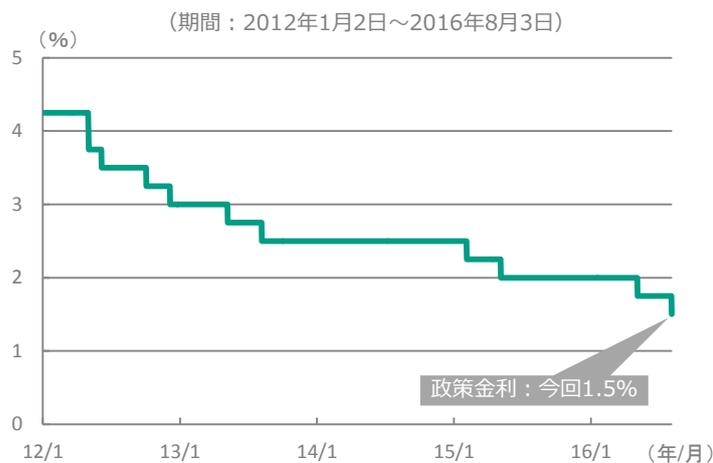
■今回の利下げは、再び0.76米ドル手前まで上昇してきたタイミングでの決定でした。声明文には「2013年から続いた自国通貨安の国内経済への好影響が最近の通貨高で危うくなっている」との趣旨の記述があることから、「通貨高へのけん制」が利下げの主目的と推察されます。利下げ決定後、オーストラリア・ドルはむしろ小幅高となり0.76米ドル付近で推移しています。このため市場では「年内にもう1回、利下げがあるだろう」との観測が浮上しています。

良好な国内景気と投資資金の流入観測

■オーストラリアの景気はゆるやかに拡大しています。企業の設備投資の落ち込みを除くと内需が総じて堅調なことに加え、主要輸出先である中国の景気減速で懸念された輸出が予想外に堅調なためです。国内総生産（GDP）成長率（前年同期比）は2016年1～3月期に+3.1%と、3年半ぶりの高めの伸びとなりました。他の主要国と比べても高めです。このため市場では、景気浮揚目的の利下げであれば「年内はなさそう」との見方も広まっていました。

■また、オーストラリア債券市場で長期金利（10年国債利回り）は、他の主要国と同様、低下傾向にあります。それでも2%を若干下回る水準を維持しています。1.5%台の米国やマイナス利回りに沈んだドイツ、日本の長期金利とは好対照です。「他の主要国と比べ魅力的な利回りのオーストラリア債券市場に投資資金が流入している」との観測等が、オーストラリア・ドルを下支えする要因となっています。

オーストラリアの政策金利の推移 図表1



オーストラリア・ドルの推移 図表2



出所：FactSetデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

担当：チーフストラテジスト 杉山 修司
 東京大学経済学部卒、ロンドン大学LSE修士
 日本銀行為替課ほか、格付会社S&P、ドイチェ・アセット・
 マネジメントを経て、2016年から現職（業界経験年数25年）

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。